一誌一句（受贈誌12・1月号他より）

米田　透　抄出

水澄むや老人とつと語り出す　（夏　爐）　古田　紀一

さりげなく老を迎へむ萩に露　（　梛　）　永方　裕子

ドローン低く飛ぶ曇天の桜かな　（景　象）　星野　昌彦

柩行く苅田にかかりやや傾ぐ　（駒　草）　西山　　睦

年の湯に百里千里の脚浮かぶ　（星　座）　植野　順聞

もう明日は街に帰る日初山河　（青　山）　しなだしん

朝日さす瑞穂の国の富有柿　（暖　響）　江中　真弓

なかんづく雲の明るさ初景色　（朱　雀）　田中　春生

冬夕焼宇和の海空火となりて　（藍　花）　谷中　隆子

澄む水を漕げばその先浄土かも　（創　生）　山口　美智